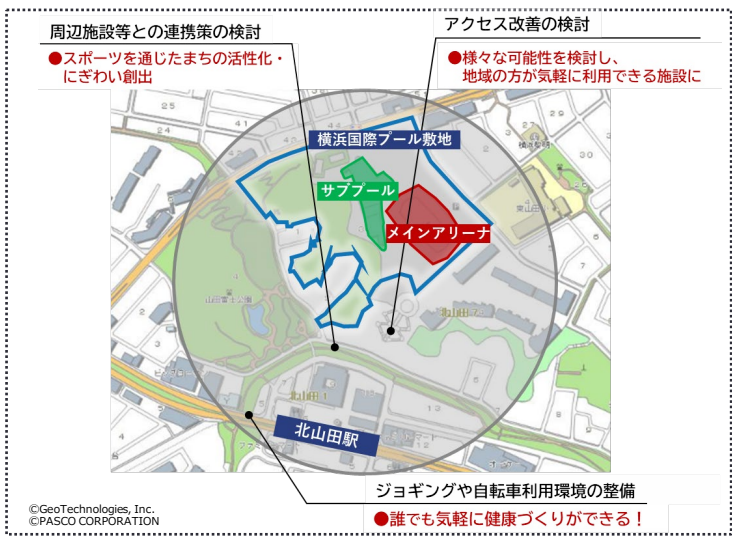


4 地域の魅力向上に向けた取組

- (1) まちの魅力向上
- スポーツアリーナは、単なるスポーツ施設に留まらず、感動体験の共有や恒常的なにぎわいの創出を通じて、地域のシンボルとなり、それを核にして新たな産業が集積するとともに、スポーツの波及効果を活かしたまちづくりが可能となるなど、地域経済活性化や持続的成長といった新たな公益をもたらすことが期待できると言われています。＊
- 周辺施設との連携策等、本施設が地域と一体となり、まちの魅力の向上に寄与するための取組を検討していきます。
- ＊一部引用「スタジアム・アリーナ運営・管理計画検討ガイドライン」スポーツ庁、経済産業省
- (2) 北山田駅からのアクセス改善
- 興行時はもとより、日常的なアクセス改善についても検討していきます。
- (3) ジョギングや自転車利用環境の整備
- 本施設を起点に、エリア全体でスポーツに親しみ、市民の健康増進、まちの活性化につながる取組を検討していきます。



5 現状と「通年スポーツフロア化」を行った場合の運営費等の試算の比較

通年スポーツフロア化する場合の再整備費用は、床転換を継続する場合の再整備費用よりも約20億円程度多くかかりますが、通年スポーツフロア化により年間2億円以上のランニングコスト（市が負担）の削減（耐用年数までの残り約40年間で約80億円）が可能となることから、トータルコストは大幅に削減できると見込んでいます。

|         | 現状※R4年度実績 | 通年スポーツフロア化の場合 | 差        |
|---------|-----------|---------------|----------|
| 運営費     | 約6.0億円／年  | 約5.6億円／年      | ▲0.4億円／年 |
| 設備保全費   | 約0.9億円／年  | 約0.5億円／年      | ▲0.4億円／年 |
| 光熱水費    | 約3.0億円／年  | 約2.2億円／年      | ▲0.8億円／年 |
| 計       | 約9.9億円／年  | 約8.3億円／年      | ▲1.6億円／年 |
| 利用料収入   | 約4.0億円／年  | 約4.5億円／年      | 0.5億円／年  |
| 横浜市負担分※ | 約5.9億円／年  | 約3.8億円／年      | ▲2.1億円／年 |

※指定管理料、設備保全費等

6 事業スケジュール（予定）

事業手法をPFI方式とした場合、現時点では以下のスケジュールを想定しています。ご意見等を踏まえ引き続き精査していきます。

- ・令和6年度：再整備事業計画策定・公表
- ・令和6～10年度：発注準備、設計、工事

横浜国際プール再整備事業計画（素案）について  
皆様のご意見をお聞かせください。

募集期間  
令和6年6月24日（月）から7月31日（水）まで

応募方法 次の方法で、ご意見をお寄せください。

- ①インターネット入力フォーム【推奨】
  - ▶スマートフォンで回答される方は  
右の二次元バーコードからアクセスできます。
  - ▶パソコンで回答される方は、下記検索ワードからアクセスしてください。
- ②はがき（左のはがきを切り取り、ご使用ください）  
【切手不要 当日消印有効】
- ③FAX 045-664-0669
- ④電子メール nw-ikenboshu@city.yokohama.jp

※素案の全体版は<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/saiseibi/pool/ikenboshu.html>でご覧いただけます。

※FAXや電子メールの場合には、「横浜国際プール再整備事業計画（素案）」へのご意見である旨を明記してください。

お問合せ  
横浜市 にぎわいスポーツ文化局 スポーツ振興課 意見募集担当  
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

- ・いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
- ・電話でのご意見の受付及びご意見への個別回答はいたしませんのであらかじめご了承ください。
- ・ご意見の提出に伴い取得したメールアドレス、FAX番号等の個人情報は「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適切に管理し、ご意見の内容に不明な点があった場合などの連絡・確認の目的に限って利用します。

横浜国際プール再整備事業計画（素案）概要版

スポーツを通じた次世代を育む拠点  
～子どもが主役の夢とにぎわいが生まれる場所に～

横浜国際プールは、市民の健康増進や体力づくりはもとより、国際級の大会をはじめ各種大会の開催や選手・指導者養成など市民スポーツから各種競技大会の開催・観戦の場として幅広く活用できる総合的な室内水泳競技場として整備され、平成10年に竣工しました。



|        |                                                  |
|--------|--------------------------------------------------|
| ●施設名称  | 横浜国際プール                                          |
| ●住所    | 横浜市都筑区北山田7丁目3番地1号                                |
| ●アクセス  | 北山田駅から徒歩5分                                       |
| ●開業年   | 平成10（1998）年                                      |
| ●延床面積  | 35,876.94㎡                                       |
| ●構造・階数 | SRC造、地上3階 地下2階                                   |
| ●主な諸室  | メインアリーナ（夏季プール/冬季スポーツフロア）、サブプール、サブアリーナ、トレーニングルーム等 |
| ●観客席数  | メインアリーナ：約5,000席（可動席含む）<br>サブプール：約350席            |
| ●運営形態  | 指定管理                                             |

○検討の背景

平成10年7月の開館から25年以上が経過し、施設の老朽化によりプール設備や空調設備等の大規模な設備更新が必要なタイミングを迎えているほか、利用者の安全性確保のためメインアリーナの特定天井脱落対策工事の実施が必要となっています。

また、令和3年度の包括外部監査では、メインアリーナを夏季はプール、冬季はスポーツフロアとして使用する運営方法（床転換）について、転換作業にかかる費用（年間約5,100万円）やこれに伴う利用休止期間（年間約2か月）に対し、経済性の点からの課題が示されました。

大規模な設備更新にあたっては、開館から現在までの間に価値観の多様化や技術革新が進み、ライフスタイルの変化に応じたスポーツの機会の確保や、映像や音声を活用した多様なスポーツ鑑賞手段等、社会ニーズの変化への対応が求められています。

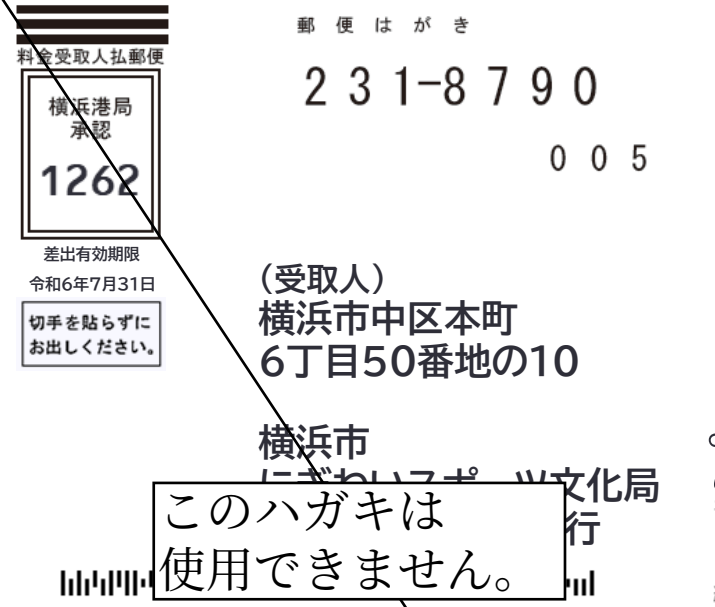
○再整備事業の目的

再整備事業は、老朽化が進んでいる横浜国際プールを、単に施設の長寿命化を図るのではなく、この機会を好機ととらえ、再整備を実施することにより、さらなる市民サービスの向上及び持続可能な施設運営を目指すのはもちろんのこと、本施設をエリア全体の魅力向上に寄与する施設にしていくことを目的とします。

本事業を実施するにあたり、現状の課題、今後の果たすべき役割、事業の方向性等について整理し、本事業の基礎資料とするため、「横浜国際プール再整備事業計画（素案）」を策定します。

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

令和6年6月発行 横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課  
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 電話：045-671-3583 FAX:045-664-0669



該当する項目に各項目1か所チェックをお願いします

- ①お住まい ☐横浜市 区（区名をご記入ください）  
☐横浜市外（ 県・市・区）
- ②年齢 ☐10代未満 ☐10代 ☐20代  
☐30代 ☐40代 ☐50代  
☐60代 ☐70代以上
- ③横浜国際プールの利用頻度  
☐毎日 ☐週に2～3回 ☐週に1回 ☐月に1回  
☐年に1回から数回程度 ☐利用したことがない



1 現状分析

|                  |                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設の状況            | ・水泳の国際大会の開催を想定して建設されましたが、平成18年以降の開催実績は2回でした。<br>・年25試合程度B.LEAGUE（Bリーグ）の試合会場として使用されるなど、スポーツフロアの利用者数が増加しており、令和4年度にはスポーツフロアの利用者数がメインプールの利用者数を超えました。<br>・包括外部監査において、夏季はプール、冬季はスポーツフロアとして床転換をする使用方法について、一本化を図り施設の効率的かつ効果的な運用を行っていく必要があるとの意見がありました。 |
| 地域の状況<br>ニーズ     | ・本施設が立地する都筑区は、子育て世代を中心とした人口構成となっており、市内で最も平均年齢の低い区です。<br>・令和5年度「都筑区区民意識調査」によると、子どもに関する居場所・施設についての取組として「親子で遊びに行ける居場所の増加」、「放課後児童の居場所の増加」などのニーズが高い状況です。                                                                                           |
| 民間事業者へのサウンディング調査 | ・子育て世代が利用しやすい施設にすることで地域へのにぎわい創出につながる可能性についての提案がありました。<br>・維持管理費の削減、多様な市民ニーズへの対応等の観点を踏まえ、床転換なしの通年スポーツフロア化の提案が多く寄せられました。                                                                                                                        |
| 地域の皆様との意見交換      | ・「地域の人々が気軽に利用できる場になってほしい」、「他のエリアからも人が集まる魅力的な施設にしてほしい」、「改修後も横浜ビー・コルセアーズのホームアリーナとして使用してほしい」、「北山田駅からのアクセスを改善できないか」、「防災の観点での利活用もできるようにしてほしい」などの意見がありました。                                                                                          |
| 水泳関係団体との意見交換     | ・「国際大会が開催できるメインプールの存続が望ましい」、「スポーツフロア化する場合、サブプールの機能充実が必要」などの意見がありました。<br>・水泳関係団体からは、メインプール存続を要望する文書をいただいています。                                                                                                                                  |
| メインアリーナ改修の検討     | ・民間事業者からの意見・提案等を踏まえると、「床転換を継続」「通年プール化」「通年スポーツフロア化」の3つの手法のうち「通年スポーツフロア化」は『市民サービスの向上』『費用削減効果』『増収効果』などの点で、他の手法よりも持続的な施設運営につながると考えられます。                                                                                                           |
| 市として取組むべき課題      | ・財政ビジョンに基づき公共施設の規模・数量、質、コストの適正化を図る必要があります。<br>・公共施設における照明のLED化や次世代自動車等の導入等、市役所が率先して脱炭素に向けた取組を推進する必要があります。                                                                                                                                     |

3 リニューアルビジョンを踏まえた再整備後の施設イメージ

(1) メインアリーナの通年スポーツフロア化

- ・体育館の利用ニーズに対応するため、多様なスポーツを実施できるスポーツフロアに改修し、市民のスポーツの場を拡充します。
- ・年間を通じて、スポーツ大会の開催や小中高生の様々な催事に対応します。
- ・利用状況に応じて、室内の一部にエア遊具を設置します。
- ・様々なスポーツ興行にも対応可能となるよう、大型映像装置、空調・音響設備改修等のアリーナ機能の拡充とファミリー席やラウンジ等の整備を行います。

|        |                                                   |         |         |
|--------|---------------------------------------------------|---------|---------|
| 席数     | 約5,000席→6,000席以上（可動席を含む）                          | 視点<br>① | 視点<br>② |
| 主な整備内容 | 大型映像装置更新・設置、空調設備更新、音響設備更新、ラウンジ・ファミリー席等整備、特定天井脱落対策 | 視点<br>③ |         |



(2) サブプールの機能強化

- ・長水路のコースを生かしながら、観客席の増設、映像装置、空調設備の改修等を行います。
- ・市民大会が開催できる基準を満たすプールとして改修等を行います。

|        |               |         |
|--------|---------------|---------|
| 席数     | 約350席→500席程度  | 視点<br>① |
| 主な整備内容 | 映像装置更新、空調設備更新 | 視点<br>③ |

(3) スポーツマンガライブラリーの設置

- ・マンガをきっかけにスポーツに親しめるよう、休憩コーナーを改修してスポーツマンガライブラリーを設置します。

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 主な設備 | 書架スペース、閲覧スペース、ベビールーム（授乳室等） |
|------|----------------------------|

スポーツマンガライブラリー設置イメージ

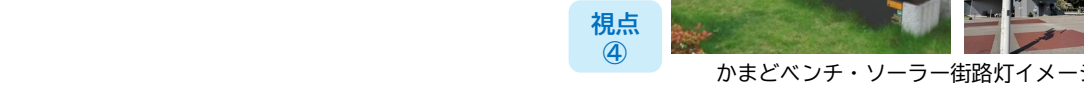
(4) 屋外遊具の設置

- ・敷地全体で、地域の皆様がいつでも立ち寄れ、また来なくなるスポーツと健康づくりの場となるよう、施設の再整備に先行して質の高い遊び場づくりを進めます。



(5) 脱炭素・地域防災力向上

- ・施設を地域の防災訓練等で活用し、日常的に防災意識向上と地域の連携強化を図れるよう、かまどベンチやソーラー街路灯等を設置します。



2 再整備の基本的な考え方

○本施設の今後果たすべき役割と再整備に向けたリニューアルビジョン

再整備後は、新しい市民ニーズ、ライフスタイルに対応した運営方法により、市民のスポーツ実施率の向上や子育て世代を中心とした地域の居場所づくりに寄与する場であることが求められると考えます。また、改修により施設の魅力をさらに高めることで収益性の向上を図るとともに、スポーツによるにぎわいを生み出し、地域経済の活性化に資することも求められます。

また、再整備にあたっては、本市が進める脱炭素化を推進するとともに、近年頻発する自然災害を受け、地域防災力の強化を求める声に応えるために防災拠点としての機能を充実させ、地域全体の価値の向上にも貢献していく必要があります。これらを踏まえ、再整備に向けたリニューアルビジョンを取りまとめました。

■横浜国際プールのリニューアルビジョンとビジョンを実現するための4つの視点

スポーツを通じた次世代を育む拠点

～子どもが主役の夢とにぎわいが生まれる場所に～

①スポーツを楽しむ交流拠点

②親子の遊びと  
ゆとりの居場所づくり

③市内小中高生の  
スポーツの聖地

④脱炭素・防災力向上

横浜国際プール再整備事業計画（素案）  
へのご意見

- ①横浜国際プールで利用する主な施設 ※複数選択可  
☐メインアリーナ  
（☐メインプール ☐スポーツフロア ※観戦含む）  
☐サブプール ☐トレーニングルーム  
☐その他（ ）

②メインアリーナへのご意見（自由意見欄）

③サブプールへのご意見（自由意見欄）

④マンガライブラリー・遊具等に対するご意見（自由意見欄）

⑤その他再整備に対するご意見（自由意見欄）